

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年 4月 8日

研究・研修課題名	救急撮影認定技師の取得（指定施設による必須研修）
研究・研修組織名（所属）	診療放射線技師のスキルアップ（救急撮影認定技師）
研究・研修責任者名（所属）	山本泰司：（放射線部）
共同研究・研修者名（所属）	金山秀和：（放射線部）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

日本救急撮影技師認定機構主催の救急撮影認定技師取得の必須研修。
（認定試験合格者に対する機構指定施設による研修）

《救急撮影認定技師の役割》

- (1) 救急診療において、各種画像検査を適切に実施すること
- (2) 救急医療を行うチームの中で、放射線診療の専門的な知識と技術を高め普及し、円滑に業務が遂行されるように努めること
- (3) 救急医療における放射線診療の安全を確保し実施すること
- (4) 救急診療において、科学的根拠に基づく放射線診療のあり方を理解し画像情報を提供すること
- (5) 救急診療に用いる医療情報を正しく管理し、運用することが出来ること
- (6) 救急診療における画像診断機器、および関連器具等の品質を保証し管理を行うこと
- (7) 各種の感染や中毒など、救急診療の危険性を理解し安全な診療を担保できること

以上から、当院における第1号の認定取得者となり救急に携わる技師を積極的に指導する。更には、次の認定取得者を育成する。

②方 法

第4回救急撮影認定技師試験を受験し、筆記試験に合格した。

日時：平成26年3月16日（日） 13:00～（受付開始：12:30～）

場所：[東京会場]東京医科歯科大学

[大阪会場]大阪市立大学医学部

筆記試験を合格したものは、以下の実地研修を行うこととなる。

実地研修の概要

救急医療施設において実地研修を10日以上行う。

本研修は、認定試験合格後1年以内に完了する。

本研修は、本機構指定の施設で2日とする。

自身の勤務する施設もしくは希望する施設で8日以上とする。

自身の所属する施設で実務研修をおこなう場合、原則として勤務時間外とする。

本研修に関する所定のレポートを提出し、査読の上実務研修の終了を判定する。
研修後のレポートには、以下に示す指定の用紙に記述され、所定の内容が含まれること。

実地研修の目標

- 1) 当直業務の引き継ぎ時に症例報告を体験し、それを日常業務とする。
- 2) 症例検討会、カンファレンスに出席し多職種による連携した診療を体験する。
- 3) 患者の安全な取り扱いに関する技術を習得する。
- 4) 感染予防に関する技術を、初療時および病室撮影において習得する。
- 5) 救急搬入時の事前準備に立ち会い、各種情報取得の実際を体験する。
- 6) 救急搬送患者の診療と画像情報の関わりを論理的に理解する。

自身の勤務する施設もしくは希望する施設における研修目標

- 1) 前記 6 項目の実行と問題点の検討をおこなう。
- 2) 外傷患者に関する診療情報の取得とその理解
primary survey の結果、secondary survey の結果、看護記録、検査データ
処置記録、手術記録、初診時画像所見
- 3) 内因性疾患患者に関する診療情報の取得とその理解
搬入時バイタルサイン、理学的所見、検査データ、処置記録、看護記録、初診時画像所見

③成 果

自身の勤務する施設もしくは希望する施設での研修（8 日以上）

日程：平成 26 年 4 月～平成 27 年 2 月

場所：島根大学医学部附属病院

本機構指定の施設での実地研修（2 日）

日程：平成 27 年 2 月 27 日（金）、28 日（土）

場所：りんくう総合医療センター（泉州救命救急センター）

筆記試験、実地研修の課題を終了し、救急撮影技師認定申請を行った。（図 2）

* 日本救急撮影技師認定機構

救急撮影認定技師認定証 受領済 【2015 年 3 月 5 日】